

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立連光寺小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 3-64-1
E-mail daihyo-rennkouji-sho@city.tama.ed.jp
Website http://schit.net/tama/esrenkouji/
幼児児童生徒数 男子 186名 女子 208名 合計 394名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、平成 29 年度研究主題を「教育課程全体で取り組む ESD の実践と教育活動の工夫」、副主題を「生活科・総合的な学習の時間を軸とした連光寺カリキュラム・マネジメント」と設定し、研究を進めてきた。

「持続可能な社会の創り手」を育てるために、具体的には、各学年でカリキュラム・マネジメントの充実や児童主体の学びによる授業改善を行うことで、生きる力を育む教育活動の展開を進めてきた。

(1) 授業改善に向けた取組

- ・ 生活科・総合的な学習の時間と教科学習の横断的な学びとして ESD を指導。
- ・ 体験から始まり、児童の思考や判断、表現を重視し、児童の主体的な活動を支援。
- ・ ホールスクール・アプローチとして、授業だけでなく特別活動なども含めた教育課程全体で指導。

(2) 教科等横断的な視点による組織的な取組

- ・ 研究主題に基づき、研究部を中心に全教職員で研究に取り組んだ。担任教員、専科教員に加えて特別支援教室の教員も特別支援教育としての関わりを研究。
- ・ カリキュラム・マネジメントを推進し、生活科・総合的な学習の時間を柱に、各教科の単元配列を工夫し、横断的に指導することを研究。
- ・ 問題解決学習の流れを活用し児童の主体的に課題設定、協議、調査、まとめ、発信の取り組みを指導。
- ・ 児童の主体性向上を図るため、委員会活動等の特別活動も活用して校内分掌や学年の取り組みも重視。

(3) 外部人材や地域資源等の活用

- ・ 各学年の活動では地域人材を活用する際は、地域コーディネーターが学校と地域間の調整。
- ・ 1, 2, 3 年の地域探検や交流では、地域の商店や農家、老人会、自然愛好家、都立桜の丘公園職員、都立桜の丘学園と連携。
- ・ 4年は多摩市水辺の学校の方々、5年は都立森林総合研究所、都立桜ヶ丘公園の職員、6年はグローバル教育推進プロジェクトと連携。6年はエコプロダクツ展にも参加し、エネルギー関連企業の取り組みを取材するなどして、社会とのかかわりを学ぶことができた。



③の写真（3年生桜ヶ丘公園）



③の写真（4年生多摩川）



③の写真（5年生炭焼き）



③の写真（6年生発電）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

Web : 国際連合広報センター (6年)、SDGsとは (イマココラボ)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年の活動内容と17の国連持続可能な開発目標（SDGs）の関連を明らかにし、各学年で指導を展開。

1年→ 3・4・11・15・17

2年→ 3・4・11・15・17

3年→ 4・8・10・11・16・17

4年→ 4・6・11・14・15・17

5年→ 4・6・11・14・15・17

6年→ 4・7・11・12・13・17

特別支援教室→ 3・4・10・17

また、連光寺小ESDで育てる4つの力を設定し、ユネスコスクールとして育む資質・能力と関連させている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内研究としてESDを取り上げ、研究主題を「教育課程全体で取り組むESDの実践と教育活動の工夫」、副主題を「生活科・総合的な学習の時間を軸とした連光寺カリキュラム・マネジメント」と設定し、研究を進めている。

また、ESD担当教員を任命し、ESDの普及や市内研修会に参加して情報交換を推進している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内研究として取り組み、年度末に内部評価を実施している。今年度成果としては、教科の特性を生かした効果的なカリキュラム・マネジメントの在り方を探ることができ、関連する教科の単元の学習時期を移動させたり、重点をおいて学習したりすることで、児童の問題意識や活動内容を高めることができたこと、児童は地域への愛着をもち、また環境に対する意識を高めることができたことである。課題としては、4つの力とESDを資質・能力の面から明確にすることや児童主体の深い学びを追究することである。

また、外部評価として保護者による評価も実施している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度から、生活・総合的な学習の時間発表会を開催しはじめた。今年度及び次年度は、東京都教育委員会持続可能な社会づくりに向けた教育推進校、多摩市公立学校研究奨励校でもあるので、発表の機会がある。そこで、活動成果を発信する。

発表会に参加した保護者からは、本校の目指す方向と各学年の活動内容のつながりが大変よく理解できたとの声が寄せられた。本校の教育活動を発信するよい機会となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

森林総合研究所多摩森林科学園、高尾森林センター、東京都動物園水族館協会、建設技術研究所、京浜河川事務所、パルテノン多摩、多摩市水辺の楽校、都立桜ヶ丘公園、グローバル教育推進プロジェクト、諸施設や地域の授業協力者の協力を得て、活動がより深まりを見せた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

ESDの推進に向け、ユネスコスクールとの交流を現在模索中である。子供の活動レベルでの交流を検討していく。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

生活科・総合的な学習の時間を軸とした「連光寺カリキュラム・マネジメント」により、児童の問題意識を高めたり、活動内容を充実させたりすることができた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

平成29年度に引き続き、校内研究として研究主題を「教育課程全体で取り組むESDの実践と教育活動の工夫」、副主題を「生活科・総合的な学習の時間を軸とした連光寺カリキュラム・マネジメント」と設定し、研究を継続する予定。

「持続可能な社会の創り手」を育てるために、具体的には、各学年でカリキュラム・マネジメントの充実や児童主体の学びによる授業改善を行うとともに、今年度の課題である、

①4つの力とESDを資質・能力の面から明確にする。

②資質・能力とのつながりを考えた、カリキュラム・マネジメントの作成を行う。

ことも視野に入れながら研究を進めていく予定。